

減容処理設備：計画概要

○設置の目的

減容処理施設は、放射性廃棄物や事故後に発生した瓦礫等の放射性固体廃棄物等のうち比較的表面線量率の低い（平均 1 mSv/h以下）金属廃棄物及びコンクリート廃棄物を効率的に保管するため、減容処理を行うことを目的とする。

○減容処理建屋

減容処理建屋は、鉄骨造の地上1階で、平面が約89m（東西方向）×約64m（南北方向）の建物で、地上高さ約13mである。

※実施計画抜粋



減容処理設備：計画概要

○減容処理建屋 概要

項目	部位・工法	仕様
建屋規模	建築面積・高さ・階	約89m（東西方向）×約64m（南北方向）×高さ13m×平屋
構造	鉄骨造（基礎RC）	ラーメン・ブレース工法併用
遮蔽	屋根 外壁垂れ壁 居室区画 等	コンクリート 厚200~350mm

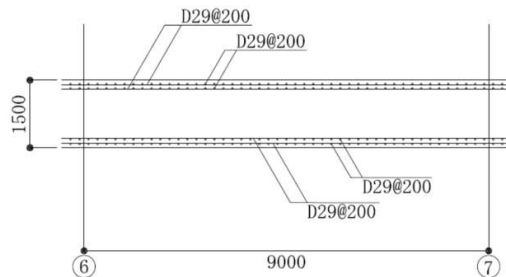
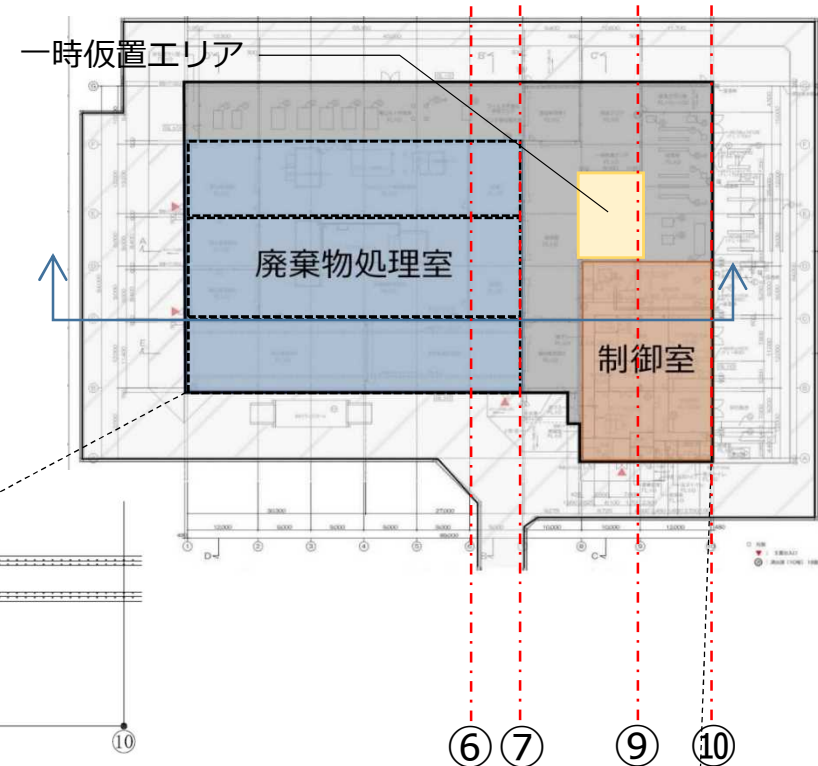


図-9 基礎スラブの配筋図 (F通り、単位：mm)

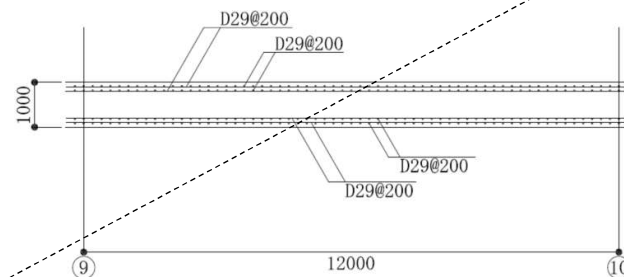
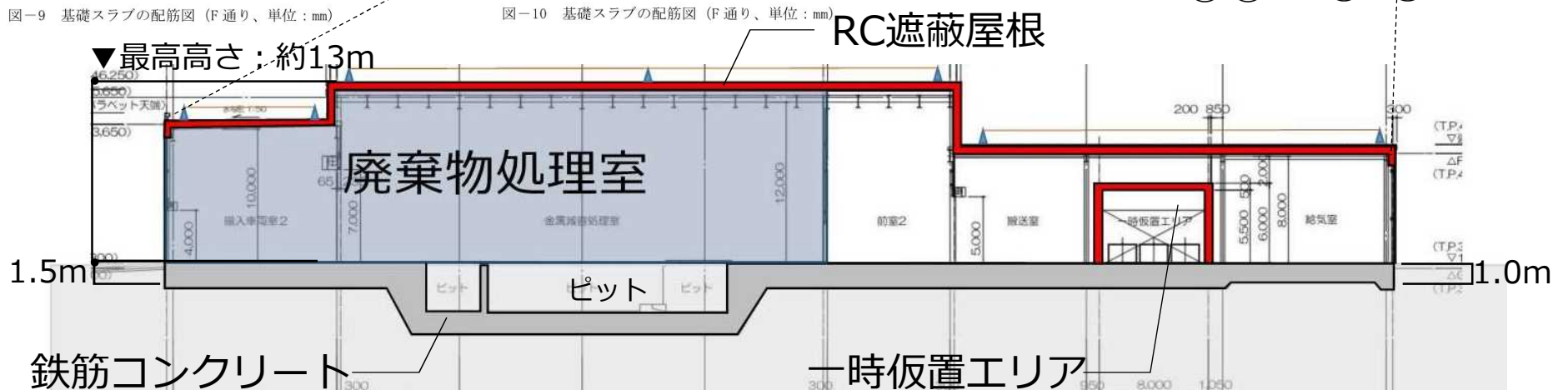


図-10 基礎スラブの配筋図 (F通り、単位：mm)



減容処理設備：計画概要

○減容処理建屋の工事に係わる確認項目（実施計画抜粋）

確認事項	確認項目	確認内容	判定基準
遮へい機能	材料確認	コンクリートの乾燥単位容積質量を確認する。	2.15g/cm ³ 以上であること。
	寸法確認	遮へい部材の断面寸法を確認する。	遮へい部材の断面寸法が、実施計画に記載されている寸法以上であること。
構造強度	材料確認	コンクリートの圧縮強度を確認する。	コンクリートの強度が、実施計画に記載されている設計基準強度に対して、JASS5Nの基準を満足すること。
		鉄筋の材質、強度、化学成分を確認する。	JIS G 3112 に適合すること。
	寸法確認	コンクリート部材の断面寸法を確認する。	コンクリート部材の断面寸法が、JASS5Nの基準を満足すること。
	据付確認	鉄筋の径、間隔を確認する。	鉄筋の径、間隔が、JASS5Nの基準を満足すること。

○工事工程

年	2020						2021									2022									2023									
月	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4